



特集

「世界の人々の快適で豊かな生活」のためにOKIができること

OKIグループのCSRのかたち

OKIグループは情報技術(IT)をコアとするモノづくりを通じて、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献することをめざしています

OKIグループは企業理念に掲げた「世界の人々の快適で豊かな生活の実現」のため、社会課題の解決につながる商品やサービスの提供はもちろん、それらを創り出し、お届けする過程における的確なマネジメントまで、営業・技術・生産・保守が一体となった「モノづくり」に取り組んでいます。なかでも社会的責任を果たす上で重要と考える5つのテーマについて、いま最前線で取り組んでいる5人のメッセージをつづりました。

ITを基盤に、地域活性化にもつながるようなソリューションを提供したい



岡本 武志

官公営業本部

OKIは情報と通信をコア技術に、さまざまな商品・サービスを提供してきました。私が担当する自治体向けの住民生活情報システムも、OKIが先行して開発してきたIP技術や防災システムを活用して地域の情報化を推進し、住民の皆様に、IP電話やインターネットなどの利便性に裏打ちされた安心・安全を提供しています。

納入先のお宅を1軒1軒訪ねて実感するのは、人と人のつ

ながりをサポートすることが、地域の発展にもつながっているということです。これをさらに進めて、最終的には地域経済の活性化にも貢献できるようなソリューションの提供をめざしています。

またこれからはこうしたシステムにも、環境の視点を加えていくことが重要だと考えています。OKIのグリーンITと自治体向けシステムの融合により、地域社会や家庭に対しても快適さと経済性、環境面の最適化を提供していけるといいますね。

具体的な取り組みは **特集1**へ

グリーンITを掲げる企業だからこそ 自らのCO₂削減にも会社全体で



水戸 明弘

総務部
施設管理チーム

現在OKIでは、老朽化したインフラ設備を更新するなど、CO₂排出量を過去5年度平均比で毎年1%削減する計画を進めています。しかし、設備の導入効果はいずれ限界がくること、今後は工場だけでなく、オフィスにおける省エネルギーも求められることから、エネルギーを消費するあらゆる部門が主体的かつ定期的

に取り組める体制に変換していきたいと考えています。そのために重要なのは、一人ひとりの環境への意識。そこで、OKIのグリーンITサービスを導入して、エネルギー消費量の「見える化」を進めています。グリーンITを掲げる企業だからこそ、自らの省エネルギー・CO₂排出削減を着実に推進し、その経験を製品開発などに活かしていければと考えています。

具体的な取り組みは [特集2へ](#)

安心・安全なモノづくりを支える 化学物質情報システムを提供



田中 大作

ソリューション&
サービス事業本部
情報システム事業部

REACH規則の施行に対応した、新たな化学物質管理ツールの開発に取り組みました。施行前の規制は当然業務に落とし込まれていないため、まさに一からの構築でしたが、完成したCOSMOS-R/RIは、法改正に加えて運用上の改善要望も反映しており、OKIの安心・安全なモノづくりに不可欠な社内システムとして活用されています。

現在は、同システムを社外に提供する業務を担当しています。管理対象となる化学物質の種類や濃度、管理方法はお客様によって異なりますから、要求に合わせた柔軟かつ迅速な対応が重要。社内運用で得てきた経験を活かして、お客様の安全なモノづくりに貢献していきたいと思っています。

具体的な取り組みは [特集4へ](#)

コミュニケーションが効果を高める モノづくりのマネジメントをめざして



山崎 康伯

生産本部
生産企画部

モノづくりにおいて私が一番重視しているのは、コミュニケーションです。たとえば生産量の調整においても、生産現場の状況とともに、営業を通じてお客様のニーズを理解しなければ、ベストな結果は導き出せません。

異なる文化・慣習のなかでモノづくりに取り組む海外生産拠点においては、コミュニケーションの重要性はさらに高まります。先日まで勤務していた中国のATM生産拠点では、社員教育や情報共有に力を入れることはもちろん、そこで使われる用語はできるだけ平易なものとするなど、誤解が生じないように配慮しました。また現場の一体感の醸成のため、社内行事なども活発に開催。こうした積み重ねが、生産性の向上につながると確信しています。

具体的な取り組みは [特集3へ](#)

お客様の安心を常に意識して 情報セキュリティレベルを向上



佐藤 正也

情報企画部

情報セキュリティ対策でまず考えることは、お客様に絶対にご迷惑をかけない、ということです。OKIのモノづくりやサービスにはITの利用が不可欠であり、営業から開発、生産、保守まで、あらゆる場面で情報セキュリティに細心の注意を払わなければなりません。もちろん体制や仕組みは整えていますが、それを

支えるのは、社員一人ひとりのセキュリティ意識です。ケーススタディを中心とした教育や事故情報の共有によって意識向上を図るとともに、万一の事故発生時の正しい対応についても、認識や感度を高めるよう努めています。今後もお客様に安心をお届けするために高度な情報セキュリティを追求し、OKIのモノづくりに対する信頼を向上させていきたいですね。

具体的な取り組みは [特集5へ](#)